

【平成28年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

音楽科における平成27年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 読譜や音楽用語の知識理解が、系統的な積み重ねや掲示の工夫、日々の活用によって定着してきている。
- ・ ペア学習や少人数グループでの学習に慣れ、主体的に関わることができてきた。
- ・ 児童同士の伝え合いや演奏活動は活発に行われるが、話し合いによる表現の工夫には至っていない。
- ・ 歌うことを好む児童が多いが、自然で響きの豊かな歌声で揃えることは難しい。

音楽科における観点別の分析

	関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の学習は特に音楽朝会の発表やグループ合奏に意欲的に取り組む。 ・歌唱は歌い方を意欲的に工夫する。発表の場面で消極的になる場合がある。 ・鑑賞では多くの言葉で書き表すが、意見発表は一部の児童に限られている。 ・仲間と協力し合って音楽づくりをする楽しさを味わっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくりの活動に慣れ、新たな表現に取り組もうとする児童が増えてきた。グループ活動の大切さにも気付いているので、仲間と試行錯誤しながら表現を工夫していく場面を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽は約束を守って奏法を学ぶことができているが、一部個別指導が必要である。 ・歌唱の姿勢や口の開け方は定着してきた。意識すれば正しい発声で音程よく歌うことができるが、持続が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を理解し、経験や知識を生かして聴くことができる児童が増えてきた。 ・音楽を聴いて感じたことをより多くの言葉で表し、全体や相手に伝えようとする児童が増えてきた。

授業改善のポイント

1. 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
→児童の実態に応じて毎時間ねらいを明確にし、確実に習得できるようにしていく。
学習の進度や積み重ねを経験として話したり生かしたりできる機会を増やす。
2. 楽曲や友だちの意見に繰り返し関わり、話し合いながら表現を工夫できるようにする。
→楽曲に関わる時間を十分にとり、楽曲や友だちの意見のよさや面白さを感じ取れるようにする。
3. 曲想にふさわしい自然な歌い方で自信をもって歌えるようにする。
→曲想に合った歌い方の違いを感じ取り、発声を工夫できるようにする。
人前で歌うことに慣れ、自信をもって堂々と発表できるようにする。

音楽科の授業改善策

1. 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
 - 低 姿勢と口の開け方、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを覚える。拍の流れにのって表現する。
 - 中 楽譜や記号を理解し、リズムづくりや旋律づくりの楽しさを味わう。リコーダーの扱いを覚える。
 - 高 オーケストラや和楽器、世界の国々の音楽に親しむ。2部合唱やグループ合奏で和音の響きを味わう。
2. 楽曲や友だちの意見に繰り返し関わり、話し合いながら表現を工夫できるようにする。
 - 低 ペアや少人数で関わり合いながら歌ったり演奏したりすることで合わせる楽しさを味わえるようにする。
音楽から感じ取ったことや思い浮かべたことを発言したり歌や演奏で表したりする児童を褒めていく。
 - 中 ペアやグループでの階名カードやリズムづくりを繰り返し行い、知識や経験をもとに話し合えるようにしていく。
友だちの意見のよさや面白さを共有することで多様な言語表現に触れ、言語活動に慣れるようにする。
 - 高 様々な表現の多様性に触れる機会をもち、自らの工夫に生かせるようにする。
自分なりの考えをもてるような教材と授業展開で、仲間に伝えやすい場を設定する。
3. 曲想にふさわしい自然な歌い方で自信をもって歌えるようにする。
 - 低 正しい歌い方のよさを実感させ、歌詞に合った声のイメージをもたせる。
 - 中 自然で無理の無い声の仕組みや効果を理解し、憧れをもって声の出し方を工夫できるようにする。
 - 高 表現に思いや意図をもち、よりよい音を求めて響きを確認め合ったり、聴き合ったりする活動を増やす。